

れる。

したがって摘葉，断根等によって悪変果の発生が多くなったとしても，それは二次的な要因でしかない。

これまでに行なった圃場試験は，いずれも悪変果を発生するところの圃場であったことから推し悪変果発生の大きな要因としては，圃場，土壌条件にあるのではなかろうか，これらについては，引き続き試験中である。

以上のことから当面，悪変果発生を少なくする方法と

しては次のことが言えよう。

1. 接木台は，大丸ユウガオでなく印度ユウガオを使う。
2. ビニールトンネル等を利用して早植し，早い時期に収穫する。
3. 施肥量を少なくし，追肥重点とする。
4. 病虫害防除を徹底するとともに管理作業等の際に作物体を痛めることのないようにする。

## イチゴに対する除草剤（ダイミット水和剤）試験

大友 詔次郎・木村 穎治・斉藤 利男

(福島県園試)

### 1. ま え が き

イチゴ栽培においては作型が分化しているので，除草剤を使う場合，使用法をそれぞれ適正に確立しなければならぬが，まだ研究を要する点が種々残されている。

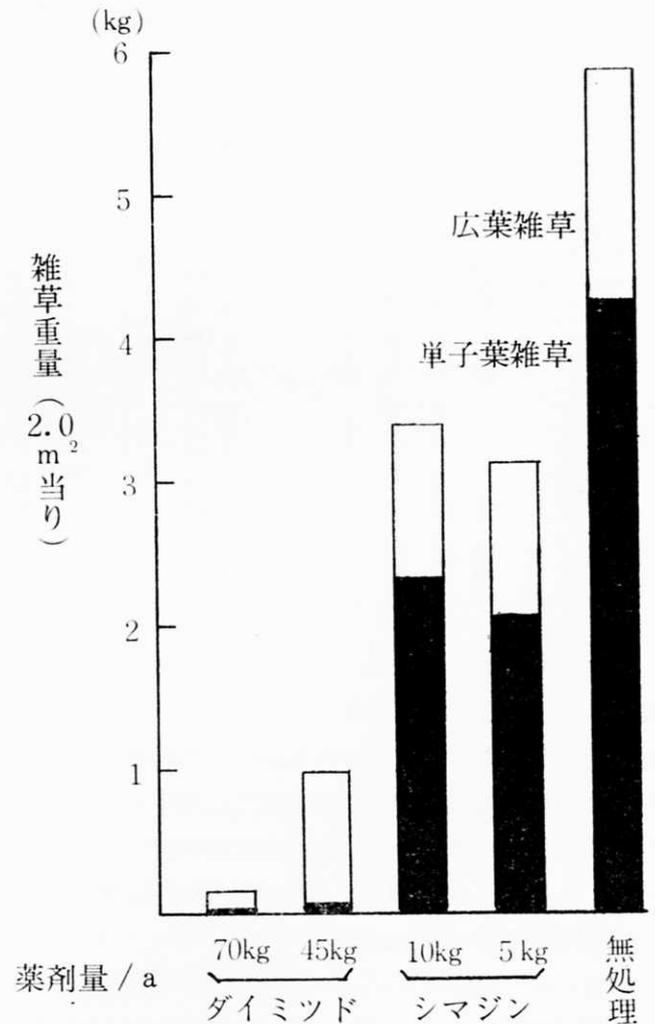
現在CI-IPC，シマジン，ニップが使われているが，最近ティノラン，レンザー，ダイミッド水和剤と，イチゴに対して選択性のある新除草剤がでてきた。本試験ではダイミッド水和剤をとりあげ露地栽培で除草剤を周年利用する方法を検討するとともに，跡作に対する薬剤の残留効果も調べようとした。

#### 1. ランナー養成圃における試験

##### 1. 試験方法

- (1) 品種：ダナー
- (2) 親株定植期：41年10月15日（収穫後，しきわらを除き，株周辺は手取り除草した。）
- (3) 1区面積と区制：1区15.3m<sup>2</sup>，2区制（収穫後1条おきに株を間引き，施肥してロータリー攪拌した。）
- (4) 株間：30cm
- (5) 土壌：洪積世火山灰壤土
- (6) 処理時の株の生育状況：地上部 142g，葉数17.4枚（15株の平均値）
- (7) 処理方法：処理時期 7月13日

散布薬量 ダイミッド水和剤45g，  
70g（製品量/a）



第1図 ランナー養成圃における殺草効果

シマジン 5g，10g（//）  
散布水量 10ℓ/a

散布方法 畦間(9ℓ入肩掛噴霧器)

(8) 処理前後の気象状況 省略

2. 試験結果

ダイミッドの殺草力は、45g, 70g使用ともに強力であったが、70g処理は45g処理よりもさらにまさっていた。ダイミッドは特に単子葉雑草に対する影響が大きいことが認められた。ダイミッド処理によっても発生した雑草は広葉雑草ではスベリヒユがやや多かった。

単子葉雑草については、本試験の範囲では抵抗性の差は明らかでなく、全体に非常によく抑えられていた。

シマジンは、実用的な殺草力を示さなかった。

ランナー発生本数については、各処理区に差がなかったが、子苗の数はダイミッド処理区がシマジン処理区および無処理区に比べてやや多かった。

ランナーの伸長量は、ダイミッドの両処理区が最も多かった。

イチゴの親株の茎葉ならびに子苗の茎葉に対する薬害は全く認められなかった。

殺草力と長期間の残効持続から、45gの全面散布が実用的であろうと考えられる。

2 ランナー養成圃における残効調査

1. 試験方法

- (1) 採土時期：11月19日
- (2) 供試野菜：キュウリ(品種一新緑宝)
- (3) 播種期：12月7日
- (4) 供試ポット：ワグネルポット1/5,000a
- (5) 土性：洪積世火山灰壤土
- (6) 施肥量：磷硝安加里(16-10-14) 2.5g/ポット 苦土石灰 2.5g/ポット
- (7) 試験条件：ガラス室内、電熱加温
- (8) 採土深度：0~3cm, 3~10cm
- (9) ダイミッド処理時から採土時までの気象状況(省略)

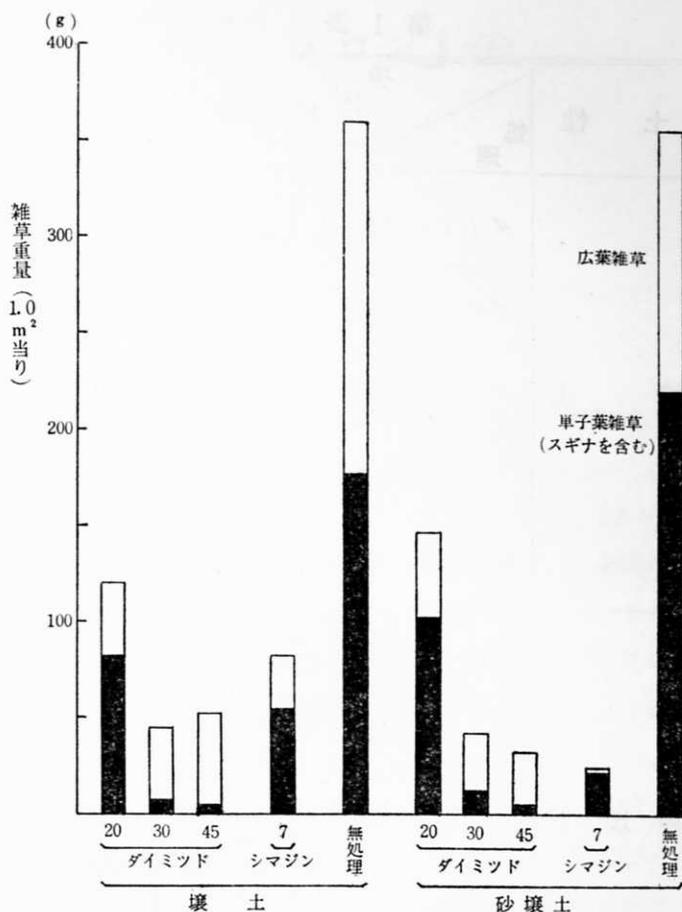
2. 試験結果

キュウリの生育は、ダイミッド45, 70g区ともに0~3cm層のものが3~10層のものに劣っており、雑草発生量との相関をあわせると、処理後5カ月弱、雨量600mmの条件でも、なお表層に近い位置ほど残効が強く(相対的に)存在するものと推定される。

3. 苗床における試験

1. 試験方法

- (1) 品種：ダナー
- (2) 移植期：9月2日



第2図 苗床における殺草効果

- (3) 1区面積と区制：1区 2.5m<sup>2</sup>, 1区制
- (4) 株間：18×18cm
- (5) 土壤条件：洪積世火山灰壤土および砂壤土(体積比3(壤土)：1(砂土)で川砂を混ぜた砂壤土)
- (6) 処理方法：処理時期9月3日  
散布薬量；ダイミッド水和剤 20, 30 45g(製品量/a), シマジン7g  
散布水量；10ℓ/a  
散布方法；株間散布(1ℓ入加圧噴霧器)

(7) 処理前後の気象(省略)

2. 試験結果

(1) 壤土の場合

殺草効果は、ダイミッド20g区は劣ったが、30g区、45g区はともに高い殺草効果を示し、単子葉雑草が少ないことが特徴的であった。

シマジン区は、やや雑草発生量が多かったが、単子葉雑草の割合が高かった。

イチゴの苗の生育に対する影響は、ダイミッドでは20g区以外は生育抑制と葉色の黄化が認められたが、45g区において最も著しかった。

本試験から、適量を求めることは困難であるが、30g

第1表 苗床残効試験のキュウリの生育状況（1月14日、各平均値）

土性	項目 処理	採土深度	調査 個体 数	草丈	葉数	最大葉（について）			地上部 生体重	葉色
						葉柄長	葉長	葉巾		
壤土	ダイミッド20	0~3	4	4.6	1.3	1.4	5.0	5.4	1.1	緑 やや黄緑
		3~10	3	5.2	1.7	1.7	5.3	6.5	1.8	
	ダイミッド30	0~3	4	4.0	1.0	1.2	4.8	5.6	1.2	緑 緑
		3~10	3	4.4	1.3	1.8	5.9	6.9	1.7	
	ダイミッド45	0~3	3	3.2	1.0	0.8	3.6	3.7	1.0	やや黄緑 やや淡緑
3~10		3	3.2	1.0	0.9	4.5	4.6	0.9		
シマジソ 7	0~3	4	3.8	1.0	0.9	3.7	3.6	1.1	やや淡緑 やや黄緑	
3~10	5	3.4	1.2	0.8	3.9	3.8	1.2			
無処理	0~3	4	4.6	1.0	0.9	3.5	3.7	1.3	やや黄緑 やや淡緑	
3~10	2	2.3	1.0	0.7	4.0	3.3	0.8			
砂壤土	ダイミッド20	0~3	3	3.7	1.3	1.2	4.9	5.3	1.4	やや淡緑 やや黄緑
		3~10	4	3.7	1.0	1.2	4.9	5.4	1.4	
	ダイミッド30	0~3	4	2.5	1.3	1.0	3.9	4.4	0.9	やや淡緑 やや黄緑
		3~10	3	3.1	1.0	1.4	5.3	5.7	1.5	
	ダイミッド45	0~3	3	2.5	1.0	0.7	3.4	3.3	0.6	やや黄緑 やや黄緑
3~10		4	2.6	1.3	0.6	3.1	3.4	0.7		
シマジソ 7	0~3	2	1.4	1.0	0.7	2.4	1.9	0.5	やや淡緑 やや淡緑	
3~10	3	1.9	1.0	1.0	3.9	3.8	0.8			
無処理	0~3	4	3.4	1.0	0.9	4.0	4.1	1.1	やや淡緑 やや淡緑	
3~10	2	3.3	1.0	0.9	4.1	4.6	1.3			

以下であろうと推定される。

#### (2) 砂壤土の場合

ダイミッドについては、殺草効果は壤土の場合とほぼ同様であり、シマジソは壤土の場合よりもやや雑草発生が少なかった。

イチゴの生育に対しては、ダイミッドは30g、45gでは明らかに生育抑制、黄緑化が認められた。

本試験では移植前後の多量のかん水と、処理後1カ月間における300mmの降雨が、薬害を生じた主因になったものと考えられるが、一応砂壤土での使用は注意を要するものと思われる。

### 4. 苗床における残効調査

#### 1. 試験方法

ランナー養成圃における残効試験に同じ

ダイミッド処理時から採土時までの気象状況（省略）

#### 2. 試験結果

##### (1) 壤土における残効

キュウリの生育状況については、調査個体数が少ないので、厳密性を欠くが、およそ次のことを推定できる。

ダイミッド処理の場合は、20g区の生育にくらべて、30g、40gと使用量を増すにつれて、本葉の大きさは小さくなっていることと、地上部生体重量もほぼ同様の傾向にあることが認められるが、このことから、なお、生育抑制の影響が残っているといえよう。

採土の深さ別には、20g、30g使用区では、明らかに0~3cm層が3~10cm層より劣っている（無処理区は逆の現象）。

殺草効力は、20g使用の3~10cm層を除けば、ダイミッド処理区はいずれも、まだかなり余力を残しているものと考えられる。

##### (2) 砂壤土における残効

キュウリの生育に対する影響は、壤土の場合と同様の傾向にあり、ダイミッドの使用量を増すにつれて、生育が劣ることが認められる。

砂壤土ではシマジソ区も生育が抑制されている。

殺草効力は、ダイミッド、シマジソともに幾分残っていることがわかった。層別の雑草発生状況では0~3cm層のほうが、3~10cm層よりもわずかに多かったが、これはキュウリの生育状況と同一傾向であった。